

平成29年度

教養ゼミ（初年次教育科目）

実 施 状 況 報 告 書



福山大学

FUKUYAMA UNIVERSITY

目 次

経済学部 経済学科	1
経済学部 税務会計学科	1
経済学部 国際経済学科	3
人間文化学部 人間文化学科	4
人間文化学部 心理学科	5
人間文化学部 メディア情報文化学科	6
工学部 スマートシステム学科	7
工学部 建築学科	8
工学部 情報工学科	9
工学部 機械システム工学科	10
生命工学部 生物工学科	18
生命工学部 生命栄養科学科	20
生命工学部 海洋生物科学科	21
薬学部	23

経済学部 経済学科・税務会計学科

■ 担当者氏名

(代表) 早川達二

■ ゼミ数、ゼミの学生数

経済学科・税務会計学科所属の平成 29 年度新入生を学生番号順に 10 クラスに分割した。1 クラスあたり 21～23 人であった。

担当教員の所属学科は以下のとおりである。

- ・経済学科： 上迫明、石丸敬二、高羅ひとみ、中村和裕、三川敦、高阪勇毅
- ・税務会計学科： 井手吉成佳、井上直樹
- ・国際経済学科： 劉曙麗、中村博

■ 実施内容

担当教員がそれぞれの独自性を発揮しつつ概ね計画通り実施した。シラバスは教員によって若干異なるものの、大学生活へのオリエンテーション(学び、目標)、本の読み方、講義の取り組み方、図書館の利用方法、履修指導、コースの説明(2年次選択のための参考として)などはほぼ共通して扱われた。

具体例としては、以下のような内容があった。

- ・円滑な大学生活を送るために必要な知識や情報を得ることを目的とした。
- ・本学の附属図書館で本を借りさせ、その感想などを提出してもらった。
- ・大学祭について、スケジュールを確認させ、どのような催し物に興味があるかなどを報告してもらった。
- ・学期途中に出席状況など自己点検をさせた。
- ・定期試験などのスケジュールなど(持ち込み物や実施教室なども)を確認させた。
- ・履修指導
- ・研究上の不正行為について説明
- ・自己紹介
- ・大学と高校の違いを考える。
- ・福山大学の歴史や施設について学ぶ。
- ・図書館の使い方オリエンテーション
- ・大学の教職員の役割について学ぶ。
- ・大学生活を設計する(やってみたいこと、1 年間の目標)。
- ・講義の上手な受講方法を学ぶ。
- ・演習と講義の違いを知る。
- ・一般 Web 検索と論文検索の違いを学ぶ。
- ・学生の主体性・モチベーション高揚のために、アクティブラーニングを導入して、グループディスカッション、対話形式、事例研究、質疑応答、発表等を、積極的に展開。
- ・特に、君たちはどう生きるのか、キャリアデザイン I でも力を入れている、一人一人の「自己の将来像」と、「生き方」について、各自考え、発表する。

■ 教養ゼミの特徴

初年次教育として「教養ゼミ」は、高校から大学への学習環境をスムーズに移行するための学習スキルを身につけて学習意欲の向上にも効果を挙げている。円滑な大学生活を送るために必要な知識や情報を得ることを重視する。また、意見交換の場として、教員とゼミ仲間とのグループディスカッションやプレゼンテーションなどを通じて、課題の探求力と社会の中で絆をつくるための自己表現力やコミュニケーション力を養っている。学生

への連絡事項伝達の間としても貴重な時間である。

平成 29 年度経済学科・税務会計学科で実施した教養ゼミの代表的な取り組みは、以下のとおりである。

- ・LINE でグループを作り、それを使って質問に答えたりお互い情報交換をしたりした。
- ・レポートを提出させ、添削指導
- ・特定のテーマについての発表と意見交換
- ・授業中に、キャリア・カウンセリングのアプローチを活用し、1 対1で、「傾聴」の姿勢に基づく、個人面談も積極的に、取り入れる。

■ 成果

平成 29 年度経済学科・税務会計学科で実施した教養ゼミの代表的な成果は、以下のとおりである。

- ・2 名ほど欠席がちな学生がいたが、その他の学生は問題なく 1 年間過ごすことができたと思う。
- ・LINE で教養講座の日程を連絡し、参加率 UP につながったと思う。
- ・真面目に取り組む学生を掘り起こすことができた。
- ・学生と私との「信頼関係」が醸成できた。その影響もあり、平成 30 年度前期では、私の前教養ゼミ生（経済学科 4 名）が、「英語マスターⅠ」を履修して、とても熱意を持って、主体的に授業に参画しており、後期では、私の前教養ゼミ生の税務会計学科の女子学生 1 名が、上記 4 名の男子学生に加えて、「英語マスターⅡ」を履修している。

■ 課題

平成 29 年度経済学科・税務会計学科で実施した教養ゼミの代表的な課題は、以下のとおりである。

- ・なんとなく大学に来たという学生のやる気を出すことは難しく、欠席がちな学生を改善させることが出来なかった。その様な学生への対策を考えていきたい。
- ・教養ゼミの人数は 10 名程度が良いと思う
- ・学生が積極的に発言するようになることが課題である
- ・知的好奇心が少なく、物事に対する問題意識も不足している。
- ・身の回りの生活に、満足しており、ハングリー精神に欠ける。
- ・県外、国外の情勢に関心が薄く、「井の中の蛙」的な傾向がある。
- ・もっと、外の世界に目を向けて、現実の世界の厳しさを実感してほしい。
- ・日本の未来を背負う、将来のグローバル人材としての、気概を意識してほしい。
- ・学問や社会的課題の本質、根本的要因を、少しでも洞察できる、能力を養ってほしい。
- ・平成 30 年度からの教養ゼミのクラス編成については変更があり、各学科別に実施する形態が導入された。経済学科は 10 クラスで（随時合同でも開催）、税務会計学科と国際経済学科はそれぞれ 1 クラスで実施している。

経済学部 国際経済学科

■ 担当者氏名

(代表)萩野寛、イアンビセット

■ ゼミの学生数

42 名（うち留学生 10 名）

■ 実施内容

- ・大学における学修の方法(図書館の利用法等)
- ・プレゼンテーションの仕方やプレゼンテーション資料作成方法
- ・国際経済学科各教員による講義
- ・海外研修プログラムの紹介
- ・トップ 10 プログラムの紹介
- ・長期留学について(ブルガリア・中国)の紹介
- ・オープンキャンパスプレゼンテーション作成(日本人学生)
- ・三蔵祭プレゼンテーション資料作成、同資料を英訳し英語でプレゼンテーション

■ 教養ゼミの成果等

- ・プレゼンテーションの仕方やプレゼンテーション資料作成方法を学修した
- ・英語力が向上した

■ 問題点、改善点及び対応策

- ・三蔵祭プレゼン資料は、もう少し中身の濃い内容にしたかった。
- ・教員による講義については、その効果が今ひとつ見えなかった。

人間文化学部 人間文化学科

■ 担当者氏名

(代表) 重迫 隆司

■ ゼミ数, ゼミの学生数

全 1 年次生 45 名

■ 授業のねらい

- (1) 1 年生全員が教員全員と顔を合わせる。
- (2) 学生全員がお互いに交流を深める。
- (3) 大学における学修への動機付けを高める。
- (4) 卒業時の到達目標を明確化することで、自分に自信を持つ。

■ 学修の到達目標

大学生として必要なコミュニケーション能力の基礎となる力を身につける。

* コミュニケーション能力の基礎となる力: 聴く力、話題に参加する力、質問する力、自分の言葉で自信を持って発表(プレゼンテーション)する力など。

■ 実施内容

- 第1回(4/13)〈授業ガイダンス〉〈全教員〉
第2回(4/20)〈図書館ガイダンス/保健管理ガイダンス〉〈全教員〉
第3回(4/27)〈保健管理ガイダンス/図書館ガイダンス〉〈全教員〉
第4回(5/11)〈人間文化学科で学ぶということ〉〈重迫+原〉
第5回(5/18)〈本について語る〉〈原+柳川〉
第6回(5/25)〈「本物」を見る、「本物」に触る〉〈柳川+山東〉
第7回(6/1)〈英語で自己紹介、日本紹介〉〈山東+重迫〉
第8回(6/8)〈物語の力〉〈青木+脇〉
第9回(6/15)〈言葉をめぐる冒険〉〈脇+清水〉
第10回(6/22)〈漢字と故事成語の文化〉〈清水+山川〉
第11回(6/29)〈ヨーロッパの歴史と文化〉〈山川+小原〉
第12回(7/6)〈地理歴史教育〉〈小原+青木〉
第13回(7/13)〈プレゼン準備〉〈脇+学生サポーター〉:「〈今〉と〈これから〉の自己紹介」
第14回(7/20)〈プレゼン①〉〈全教員〉* 第14回と第15回でそれぞれ「ベスト
第15回(7/27)〈プレゼン②〉〈全教員〉 プレゼン賞」を学生および教員の投票で決定。

■ 教養ゼミの成果

毎時間の学生コメント、最後のプレゼンテーションおよびアンケートの結果より、全員が到達目標に達したことを、学生、教員とも確認した。

■ 問題点, 改善点, 対応策

開講曜日を木曜 5 時限に統一し、グループ分けを改善した。プレゼンの準備においては、先輩である学生サポーターの参加により従事したものとなった。来年度も同様に行う。

人間文化学部 心理学科

■ 担当者氏名

青野 篤子, 日下部 典子, 谷口 敏淳, 山崎 理央

■ ゼミ数, ゼミの学生数

ゼミ数4, 各ゼミに15~16名の1年生が所属した。

■ 実施内容

前期

①ピア・サポート訓練(教員+学生サポーター)

主な内容:ピア・サポートとは(自分自身を知ろう, コミュニケーション), 傾聴について(聴き方のロールプレイ, 話し合ってみよう), ストレスへの対処

②プロブレム・ベースド・ラーニング(PBL)(教員+SA)

7~8名のスモールグループで,「大学生活での気になる出来事」についてのプリントを基に,話し合いを通して課題を見つけ,その解決方法までをまとめた。最後に全体で各グループの発表を実施した。

③新入生歓迎会(2年生主催)

後期

①レポート作成を学ぶ(教員+SA)

考文献の探し方, 引用文献の書き方, レポートの構成などをテキストに基づいて学び,各自が心理学に関わるテーマを見つけて,レポートの書き方を実習した。

②読書感想文を書く

③その他(福山市保健所による「ゲート・キーパー研修」, 29号館案内, 学生相談室案内およびメンタルヘルスについての講義(講師:松本先生), 図書館案内を実施)

■ 教養ゼミの成果

【授業全般】

初回は1年次生全員を対象に,松田学長による特別講義(「ピア・サポート」という概念の紹介と必要性についての説明)が実施された。その後①ピア・サポート訓練では,心理学科教員と3,4年生の学生サポーターが「ピア・サポートをはじめよう」をテキストに,学生同士がサポートしあうためのスキル(傾聴の基本スキルや質問・伝達スキル)の訓練を行なった。ロールプレイや話し合いを中心とした授業に出席することで,傾聴やサポートの重要性を経験し,互いに支えあう関係を築くことができた。また,②PBLでは5回のスモールグループディスカッションや発表等の活動を通して,グループでの役割,課題を見つけるところから発表までのプロセスを学び,グループ・ディスカッション・スキルを修得することができた。

後期は,テキストに基づいて,論文作成の基礎を学んだ。図書館で各自のテーマに関わる参考文献を探し,引用文献の書き方に基づいて,レポートを作成することができた。また,読書感想文をまとめ,各ゼミで発表し,意見交換をすることができた。「学生相談室案内」を通してメンタルヘルスの重要さと,臨床心理士による「ゲート・キーパー研修」で,心理学で学んだことを活かすことについて知ることができた。

【上級生からのサポート】

3年生,4年生:①ピア・サポート訓練では,学生サポーター養成講座のメンバーが3~4名ほどでグループを形成し,各教養ゼミに配属された。サポーターは10回の講義を通して1年生に対するピア・サポート訓練を実施した。また,前期②PBLでは,各ゼミに1名のSAが配置され,グループワークのサポートをした。後期は図書館で参考文献を探す手助け,引用文献の書き方などについて個別にサポートをした。

このような上級生がサポーターとして授業に参加することで,1年生のピア・サポート訓練の効果が上がり,グループワークがスムーズに進むなど,学年を越えた交流が促進された。

■ 今後の課題

欠席回数が多い学生への対応を考えていく。

2年次の実験実習及びリサーチ実習のレポート作成に活用できるスキルの学習課題を検討する。

■ 特記事項

今年度も,心理学科教員が作成した冊子(ピア・サポート訓練のテキスト)を1年生に配付した。

新入生合宿オリエンテーションでは学生サポーター養成講座の学生が考案したプログラムを実施した。

人間文化学部 メディア・映像学科

■ 担当者氏名

(代表): 渡辺浩司

■ ゼミ数, ゼミの学生数

ゼミ数: 3 (一年次担任: 筒本、渡辺、阿部)

ゼミの学生数: 8 名程度

■ 前期実施内容

- 教務委員によるガイダンス
- 学生生活や学修に関するアンケート調査
- 少人数ゼミ(ゼミ学生の交流、SNS の活用について、等)
- 留学中の本学科学生との Skype を利用した交流
- 学科教員によるゼミ

■ 後期実施内容

映像制作のグループとイラスト・クラフトのグループとに分かれて制作を行った。映像制作のグループが制作した 3 編の短編映像作品は 2 月 25 日に福山駅前シネマモードで開催されたメディア・映像学科映画上映会にて上映され、ゲストの長崎俊一監督からもご講評いただくなどした。後者のイラスト・クラフトのグループは、自分たちの制作物を上下町で開催されたマーケット「アマチュア横丁」にて販売し完売するなど、地域の方々との交流の機会づくりの一端ともなっている。

■ 前期教養ゼミの成果等

- ・受講者の将来の夢や目標を実現するために本学科で何を学ぶかを明確にする、学科に関係する職業と学科の教育目標の関係が説明できるようになるという点はおおよそ達成できた。
- ・自身の制作物を映画会等で発表することで、制作活動に対するモチベーションの向上に役立った。

■ 問題点, 改善点

特に問題はなかった。

工学部 スマートシステム学科

■ 担当者氏名

代表: 伍賀 正典

宮内 克之、三谷 康夫、仲嶋 一、田中 聡、香川 直己、関田 隆一、菅原 聡、沖 俊任、伍賀 正典

■ 実施内容

- 1 回目(4/10)概要説明、自己紹介
- 2 回目(4/17)授業の受け方、ノートの取り方、図書館訪問
- 3 回目(4/24)保健管理センター訪問
- 4～7 回目(5/1、5/8、5/16、5/22)小グループゼミ
- 8～15 回目(6/8、6/15、6/22、6/29、7/6、7/13、7/20、7/27)ロボット競技会企画

■ 教養ゼミの成果等

- 初回では大学と学科についての説明の後、各自が自己紹介を行った。
- 2回目では基礎的なスキルとしてのノートの取り方や授業の受け方について指導した。また、図書館に訪問し図書館職員による図書館利用の方法説明を行った。
- 3回目では、保健管理センター松本准教授の指導で学生相談ガイダンスを行った。
- 合宿オリエンテーションで実施した数学テストの結果から5つの小グループを作った。この小グループでゼミを行い数学基礎などの学力底上げを行った。
- 8～15回目まで、ミニロボットコンテストの企画・運営・参加を行った。各グループで自発的に役割分担が行われ、レスコンシーズのロボットキットの作成、ブレインストーミングや線表を用いたスケジュール管理方法、パワーポイントでの企画の発表、競技会の実施と参加等を行い、グループでの協調作業を経験した。
- ロボット競技会企画の課題では3号館1階のプロジェクトルームを用い、ロボット競技は3号館エントランスホールで開催した。このグループでの作業は学生間の交流を深める狙いもあり、十分な効果が出ていると考えられる。
- このミニロボットコンテストの作成物は、8月に神戸で行われた第16回レスキューロボットコンテスト併設の「あそぼう！まなぼう！ロボットランド」において、レスコンシーズ備後版として出展し、教養ゼミを受講した学生数名がスタッフとして参加した。また、三蔵祭の工学部イベントとしても出展し、1年生数名が世話役として活動し、学外から100名を超える来場者があった。これらのロボットコンテストの内容をもとに、第25回計測自動制御学会中国支部学術講演会、IEEE主催2016年度第2回学生研究発表会で教養ゼミを受講した1年生が登壇し口頭発表を行った。

■ 問題点、改善策、後期での対応策

- ここ数年、教養ゼミ予算を利用してミニロボットコンテストを開催しており、1年生同士の親交が深まり良い効果が得られ、またこのプロジェクトを中心に学会発表や学外イベントなども実施できている。
- 工作が得意な学生が中心となる傾向があること、全国イベントに出展し学会発表を行うため学生にとって難易度が高いことなどが取り組むべき課題としてあげられる。
- 工作が不得手な学生のスムーズなスキルアップを促すような、教材の開発を提案したい。学科での学習で必要となるマイコンの知識、プログラムの基礎などを取り入れることが効果的ではないかと思われる。
- イベントへの出展等で各教員の協力の下で学生への指導を十分に行い、学生の大学生生活の糧になる経験となるように心がけたい。

工学部 建築学科

■ 担当者氏名

(代表・1年担任)山田明、酒井要

大島秀明、宮地功、田辺和康、都祭弘幸、佐藤圭一、藤原美樹、佐々木伸子、伊澤康一

■ 教養ゼミの目的

建築の初学者に対する入門授業として、「建築」で取り扱うジャンルがデザイン・計画・歴史・環境・構造・構法といった理系から文系にわたる広範な分野を扱うことを知ることを目的としている。

■ 実施内容

授業はPBL形式で取り組み、ジャンルへの課題を探すことから始まり、興味と理解を深めていく流れで行った。各教員が6～7名の学生を担当し、グループワークを実施した。『「強・用・美」：豊かで安全な生活空間をつくるために』を共通テーマに掲げ、松永・福山・尾道地域の建築や地域を対象とする課題に取り組んだ。

最終回では、ポスターセッション方式による成果発表会を実施し、他のゼミで取り組んだプレゼンテーションも聴講することによって、建築で取り組む幅広いジャンルと内容を学ぶ機会とした。

第1～14回：各ゼミでのグループワーク

第15回：ポスターセッション方式による最終発表会

- ・ 大島ゼミ 福山商店街再生のための基礎調査(本通り商店街・久松通り商店街)
- ・ 宮地ゼミ 福山駅周辺の発展
- ・ 田辺ゼミ 観光のまち尾道一三軒家町、西土堂町、東土堂町、長江一丁目の実態を調査・考察するー
- ・ 都祭ゼミ コンセプト 福山市の再開発・活性化
- ・ 佐藤ゼミ 備後柿渋～伝統産業を後世へ～
- ・ 藤原ゼミ 松永公共施設見学マップ
- ・ 佐々木ゼミ 車なしでは暮らせないの？！福山！～交通弱者をなくすためには～
- ・ 山田ゼミ 福山市と松山市を対象とした利便性の調査
- ・ 伊澤ゼミ ～E美～
- ・ 酒井ゼミ 松永町、エコ推進

■ 教養ゼミの成果

グループワークでゼミ毎に取り組んだ成果をポスターセッション形式により発表する際、担当教員による採点の他に学生による相互評価も行った。自ら評価をすることによって、他のゼミのテーマも詳しく知ることができ、発表会に主体的に参加できるという効果があった。

■ 課題

本年度は昨年度よりも対象とする地域を拡張したものの、その中で問題を取り出すことが難しかった。建築の初学者向けに問題を絞り込むなどテーマを検討することが課題である。

工学部 情報工学科

■ 担当者氏名

(代表)尾関孝史

山之上卓、占部逸正、金子邦彦、新谷敏朗、宮崎光二、池岡宏、中道上、森田翔太

■ 目的

1年次生に対し、少人数クラスを編成し、初年次教育の一環として、コミュニケーション、ディスカッション、プレゼンテーションなどの能力を伸ばす。あわせて、大学での学び、情報工学科での学びについて詳細を説明し、学生自らが大学でのより良い学びができるよう情報提供と指導を実施する。また、学生は、教養講座を受講し、幅広い学問的視野と教養を身に付ける。

■ 実施内容

実施回数 15 回のうち、7 回は、テキスト「大学学びのことはじめ：初年次ワークブック3訂」に基づき、1) 単位、時間割、履修方法の確認、2) 受講の心得(勉強の仕方)、3) 履修登録確認、4) 大学生活について(課外活動や大学祭など)、5) 大学施設の利用(学生相談室、図書館の利用法)、6) マナーアップ(クリーンアップ)作戦として工学部新棟付近の清掃活動、7) 資格取得を実施した。残りのうち 3 回はグループワークを行い、5 回は教養講座を割り当てた。グループワークでは、学生を 5 人程度のグループに分け、各グループにコーディネータ役の教員 1 名を配置し、グループディスカッション等を通して、創造性、自主性、論理的思考に関する実習を実施した。具体的には、

第 1 週 全体説明、グループ分け、テーマの選択、役割分担

第 2 週 テーマについての調査、資料作成

第 3 週 発表及び聴講

を行った。グループワークでは、教養ゼミの趣旨を考慮し、

- ・学生同士のコミュニケーションの機会を多くとり、お互いの理解を深める
- ・学生と教員が接する機会を多くとり、学生と教員の距離を縮める
- ・コミュニケーション、ディスカッション、論理的思考、文書作成、スピーチを到達目的とした。

教養ゼミの他の活動として、学科の大学祭や、学科の特別講演会への参加があった。

■ 成果等

教養ゼミを通して、大学生活の過ごし方や大学施設の利用方法を学んだ。また、少人数のグループにわかれてプレゼンテーションの準備作業を行うことによって、学生同士のコミュニケーションが活発になった。更に、多くの教員と話をする機会を多くとることにより、担任以外の教員とも気軽に話せる雰囲気を作ることができた。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

内田 博志

■ ゼミの学生数

6名

■ 実施内容

- 第1回 福山大学の基礎知識
- 第2回 大学でいかに学ぶか
- 第3回 福山大学をもっとよく知ろう
- 第4回 大学の図書館を利用しよう
- 第5回 「7つの習慣」に学ぶ(1)
- 第6回 「7つの習慣」に学ぶ(2)
- 第7回 「7つの習慣」に学ぶ(3)
- 第8回 「7つの習慣」に学ぶ(4)
- 第9回 「7つの習慣」に学ぶ(5)
- 第10回 “モノづくりのまち備後”で何を学ぶが 身だしなみ、挨拶と言葉づかい
- 第11回 自己紹介と他人紹介
- 第12回 社会人としてのマナー
- 第13回 来客対応と客先訪問
- 第14回 電話の受け方・かけ方・取り次ぎ方
- 第15回 特別講義「企業でのモノづくり」
- 第16回 教養講座(1)
- 第17回 教養講座(2)
- 第18回 教養講座(3)
- 第19回 教養講座(4)
- 第20回 教養講座(5)
- 第21回 教養講座(6)

■ 教養ゼミの成果等

第1回～第3回では、大学での学び方や大学生活の送り方など、大学新入生として持つべき心構えや基本知識を学習した。第4回は図書館オリエンテーションへの参加を通じて、福山大学の施設やサービスの利用方法を学んだ。第5回～第9回は、ベストセラー文献である「7つの習慣」の内容をもとに、大学生としてどのように人生目標を立て、責任ある大人としてやっていくか、いかに大学内外の人とコミュニケーションをとりながら自己を成長させていくかなどについて学んだ。第10回～第14回は基礎教養講座として、社会人としてのマナーについて学習した。第15回は特別講義として、企業の技術者を招聘し、学生に対する企業からの期待等について講演を聞いた。第16～第21回は大学主催の教養講座を聴講した。

いろいろな要素を含んだ授業内容とすることで、学びに広がりを持たせたことで、受講生らの教養を高める面では一定の成果が得られたものとする。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

「7つの習慣」に基づく学習は、よりよい人生(とりわけ大学生活)を送るための心構えを身につけることを主目的として行ったが、受講生の関心がそれほど高まらず、学習に深まりを持たせることができなかった感がある。来年度は、受講生の関心を高めるための要素を加味することを検討する。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

真鍋 圭司

■ ゼミの学生数

6 人

■ 実施内容

1. はじめに、自己紹介など
2. 大学生活、単位の取り方、試験など
3. 大学での学習方法、レポート作成方法
4. 大学の施設、勉強方法など
5. マナーコミュニケーション(1) はじめに、“モノづくりのまち備後”で何を学ぶか、身だしなみ、挨拶と言葉づかい
6. マナーコミュニケーション(2) 自己紹介と他人紹介
7. マナーコミュニケーション(3) 社会人としてのマナー
8. マナーコミュニケーション(4) 来客応対と客先訪問
9. マナーコミュニケーション(5) 電話の受け方・かけ方・取り次ぎ方、まとめ
10. 数学に親しもう。関数について考える。変化率、微分
11. 微分の公式を覚えよう。
12. プレゼンテーションの基礎
13. 微分の問題を解き、解き方を説明する
14. 物理と数学がどのように関連しているか考えよう。
15. 特別講義
16. 教養講座(1)
17. 教養講座(2)
18. 教養講座(3)
19. 教養講座(4)
20. 教養講座(5)

■ 教養ゼミの成果等

大学生生活を始めるための基本的なことは十分説明できた。大学の施設案内では図書館を見学した。またマナーコミュニケーションでは、コミュニケーションの苦手な学生に対して配慮をお願いした。本ゼミでは数学を題材にして、エクセルを使って、問題を解いてプレゼンテーションし、コミュニケーションを取り合った。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

6人のうち、1 人は3年生で、コミュニケーションが大変苦手な学生で、欠席がちであった。1年生は、高校から大学生活へのスムーズな移行ができたと思う。またコミュニケーションもとり、数学の基礎問題にも取り組んだ。この年からパソコン必携化であり、教養ゼミでの活用を考えたが、十分にはできなかった。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

坂口 勝次

■ ゼミの学生数

6名

■ 実施内容

- 第1回 オリエンテーションと他己紹介
- 第2回 キャンパスライフとスタディスキルズ
- 第3回 テーマの趣旨説明と決定
- 第4回 情報収集・分析
- 第5回 資料づくり
- 第6回 グループ・ディスカッション
- 第7回 まとめ
- 第8回 プレゼンテーションの準備
- 第9回 プレゼンテーション
『社会人としてのマナーとコミュニケーション実践トレーニング』(内田・中東・小林教養ゼミと合同)
- 第10回 “モノづくりのまち備後”で何を学ぶか <身だしなみ, 挨拶と言葉づかい(1)>
- 第11回 自己紹介と他人紹介 <身だしなみ, 挨拶と言葉づかい(2)>
- 第12回 社会人としてのマナー
- 第13回 来客応対と客先訪問
- 第14回 電話の受け方・かけ方・取り次ぎ方 <まとめ>
- 第15回 特別講義「企業でのモノづくり」:ダイキョーニシカワ(株) 吉川秀明 講師
- 第16回 教養講座(第1回, 4月25日): 井上正康 講師
『現代医学と21世紀病の逆襲 ~生物進化史から生命の内景と最先端医療を俯瞰する~』
- 第17回 教養講座(第2回, 5月12日): 安藤雅司 講師
『アニメーション制作の現場から』
- 第18回 教養講座(第3回, 7月13日): 竹内昌彦 講師
『見えないから見えたもの』
- 第19回 教養講座(第4回, 10月2日): 羽田 皓 講師
『未来をつくる自治体経営』
- 第20回 教養講座(第5回, 11月28日): 部谷京子 講師
『映画の現場から, 世界へ!』

■ 教養ゼミの成果等

「環境対策と保全」を本教養ゼミの統一テーマとした。このテーマを取り上げる理由と重要性を最初に説明し、環境問題とその対策に対する探究心と学修のモチベーションを高めることができた。

統一テーマに基づき、学生は自分で関心を持ち探究するための個々のテーマを設定した。学生自身が統一テーマについて調査し選択した個々のテーマは大きく分けて、バイオ燃料、植樹、水素自動車、PHV、工場排気、再生可能エネルギーであった。これら個々のテーマについて、原因と仕組み、対策の現状について、情報収集・分析・整理を通じて再認識し、SGDを通じて考察を行った。

本教養ゼミの統一テーマの取り組みによって、地球環境破壊の深刻さや環境技術の現状をあらためて認識し、これからの安心・安全な循環型社会を目指して技術者として社会に貢献する態度を醸成する意味でも、本学科での学修の意義を自覚する機会になったと思われる。

また、大学での学修に関する技能・態度、社会人としてのマナー等の態度を身に付ける取り組みのほか、企業人(技術者)を講師に招き産業界でのモノづくりの現状と技術者の仕事と心構えを知るための「特別講義」を開催し、将来に向けてこれからの学修生活をどのように送るかを考える機会になったと思われる。

■ 問題点, 改善策, 次年度での対応策

社会に役立つこと、自然と共生する技術について少しでも知ることによって、社会貢献の精神を醸成しつつ将来の技術者像を確立する機会を通じて、学生自身が自他ともに未来のためのこれから始まる学修がいかに大切であるかを認識できるように、学修のモチベーション向上に継続して努めていきたい。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

木村 純壮

■ ゼミの学生数

6 名

■ 実施内容

- 第 1 回 ガイダンス, 顔合せ・挨拶, 授業実施方法説明, 自己紹介準備
- 第 2 回 自己紹介, 動画撮影&視聴, 反省・感想記入, スピーチ, 大学環境
- 第 3 回 大学生活について 大学と高校の相違点, 大学生活の送り方の注意
- 第 4 回 学習方法, 受講の心構え, 授業の聞き方, ノートの取り方, 授業外学修
- 第 5 回 「モノづくりのまち備後」で何を学ぶか, 身だしなみ, 挨拶と言葉づかい
- 第 6 回 自己紹介と他人紹介
- 第 7 回 社会人としてのマナー
- 第 8 回 来客応対と客先訪問
- 第 9 回 電話の受け方・かけ方・取り次ぎ方 5 回分のまとめ
- 第 10 回 大学生活と就職, 就職概略スケジュール, 企業情報
- 第 11 回 就職活動, 就職試験, SPI適性検査模試実施(理科・物理関係), 解説
- 第 12 回 仕事と資格, 機械設計技術者試験 3 級, 機械技術者関係資格
- 第 13 回 時事問題 調査・整理・プレゼンテーション
- 第 14 回 高校生活と変わった点 将来計画策定 プレゼンテーション 感想発表
- 第 15 回 特別講義「企業におけるモノづくりの方法」(企業講師)
- 第 16 回 教養講座(1)
- 第 17 回 教養講座(2)
- 第 18 回 教養講座(3)
- 第 19 回 教養講座(4)
- 第 20 回 教養講座(5)

■ 教養ゼミの成果等

初年次教育として, 大学生活への適応や注意点, 基礎力の育成と大学生活の目標, 将来計画等をテーマとして取り扱った. 実践・体験型の「マナー & コミュニケーション」として, 挨拶, 礼儀, 作法, 身だしなみ等の社会人マナー講座 5 回を実施した. 毎回の授業において, 説明・問題提起, 考察, 整理, プレゼンテーション, 質疑のプロセスを経るようにして, 学生が自分で考えること, プレゼンテーションやディスカッションの機会が増えることを重視した. 学生も積極的に, 関心を持って取り組み, 内容の重要性も理解しつつ, 概ね良好な評価であった.

■ 問題点, 改善策, 次年度での対応策

ICT 活用機会を増加してきているが, ICT 機器必携化に伴い, さらに活用を検討したい.

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

加藤 昌彦

■ ゼミの学生数

6 名

■ 実施内容

- 第 1 回 教養ゼミの説明、自己紹介
- 第 2 回 初年次教育(大学の施設・設備、大学での授業)
- 第 3 回 初年次教育(学生生活、卒業後の進路)
- 第 4 回 初年次教育(機械工学の学習、4 年間の勉強)
- 第 5 回 マナー及びコミュニケーション
(はじめに, “モノづくりのまち備後”で何を学ぶか, 身だしなみ, 挨拶と言葉づかい)
- 第 6 回 マナー及びコミュニケーション(自己紹介と他人紹介)
- 第 7 回 マナー及びコミュニケーション(社会人としてのマナー)
- 第 8 回 マナー及びコミュニケーション(来客対応と客先訪問)
- 第 9 回 マナー及びコミュニケーション(電話の受け方・かけ方・取り次ぎ方)
- 第 10 回 片持梁の強度試験1 ルール説明およびアイデア醸成
- 第 11 回 片持梁の強度試験2 図面作成
- 第 12 回 片持梁の強度試験3 梁の試作と評価
- 第 13 回 片持梁の強度試験4 本作成
- 第 14 回 片持梁の強度試験5 強度評価とまとめ
- 第 15 回 特別講座
- 第 16 回 教養講座①
- 第 17 回 教養講座②
- 第 18 回 教養講座③
- 第 19 回 教養講座④
- 第 20 回 特別教養講座
- 第 21 回 教養講座⑤

■ 教養ゼミの成果等

第 1～4 回で、教養ゼミの意義、大学での勉強方法、生活態度、就職のための準備等について説明し、今後の勉強・生活面で進むべき方向を理解させた。第 5～9 回では、大学生あるいは社会人として必要な「マナーおよびコミュニケーション」をロールプレイングにより身に付けさせ、その重要性を認識させた。第 10～14 回では、機械工学専門科目の一つである材料力学のイントロ講義として、ケント紙を使ったコンテスト競技型授業を行った。

■ 問題点、改善点、次年度での対応策

アクティブ型授業を取り入れたことにより、学生の学習意欲は高いと思われるが、一部、消化不良の学生も見受けられた。次年度からは、BYOD を組み入れた授業を試みる。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

関根 康史

■ ゼミの学生数

6人

■ 実施内容

1. はじめに、自己紹介など
2. 大学生活、単位の取り方、試験など
3. 大学での学習方法やレポートの作成方法について
4. 大学の施設や勉強方法など（＋”フロントマン教育が何故大切なのか？”について）
5. 安全を考えよう(その 1)「ペダル踏み間違い事故」は何故発生するか(前編)
6. 安全を考えよう(その 2)「ペダル踏み間違い事故」は何故発生するか(後編)
7. 安全を考えよう(その 3)「自動車アセスメント」から安全を考える
8. 安全を考えよう(その 4)「交通事故の事例」から安全を考える(前編)
9. 安全を考えよう(その 5)「交通事故の事例」から安全を考える(後編)
10. 特別講義
11. 教養講座(1)フロントマン教育(“モノづくりのまち備後”で何を学ぶか、身だしなみ、挨拶と言葉づかい)
12. 教養講座(2)フロントマン教育(自己紹介と他人紹介)
13. 教養講座(3)フロントマン教育(社会人としてのマナー)
14. 教養講座(4)フロントマン教育(来客応対と客先訪問)
15. 教養講座(5)フロントマン教育(電話の受け方・かけ方・取り次ぎ方、まとめ)
16. 教養講座(1)
17. 教養講座(2)
18. 教養講座(3)
19. 教養講座(4)
20. 教養講座(5)

■ 教養ゼミの成果等

今年度配属された学生は 6 名で、うち 1 人は 3 年生であった。この 3 年生については、今まで出席率がよくなかったことなどから、再履修となってしまったようだが、今年度に落としてしまうと、来年の就職活動に支障をきたす旨を説明したところ、今年は何回かの欠席はあったものの無事履修することができた。また、最近 TV や新聞などで社会問題視されている「ペダル踏み間違い事故」に関する初歩的な実験も行った。これにより、学生にも、身体を動かすことで、安全に対してより一層の理解を深めることが出来たと思う。また、図書館の見学も実施した。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

今年度の教養ゼミについては、再履修の 3 年生以外については、特に欠席も無く、問題となることは無かった。なお、再履修の 3 年生については「6 回までは欠席できる」と考えているらしく、計画的に欠席をする傾向があった。最初から「何回までは欠席できる」と思い込んでいる学生については、いかにして放棄をさせないようにもっていくか、よく注意をしておく必要がある。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

中東 潤

■ ゼミの学生数

6 名

■ 実施内容

- 【第1回】オリエンテーション、自己紹介の方法
- 【第2回】課外活動のすすめ
- 【第3回】資格の種類と取得方法
- 【第4回】図書館オリエンテーション
- 【第5回】リサーチの方法、プレゼンテーションの方法
- 【第6回】プレゼンテーション用資料の作成(テーマ:学生がだまされる危険について)
- 【第7回】プレゼンテーション
- 【第8回】プレゼンテーション用資料の作成(テーマ:スポーツと新素材)
- 【第9回】プレゼンテーション、キャリアデザイン、小まとめ
- 【第10回】“モノづくりのまち備後”で何を学ぶか 身だしなみ、挨拶と言葉づかい(1)
- 【第11回】挨拶と言葉づかい(2)、自己紹介と他人紹介
- 【第12回】社会人としてのマナー
- 【第13回】来客応対と客先訪問
- 【第14回】電話の受け方・かけ方・取り次ぎ方
- 【第15回】特別講義「企業でのモノづくり」
- 【第16～21回】教養講座

■ 教養ゼミの成果等

受講生の主な感想は以下の通りである。

- ・自己紹介の重要性がよく分かった。
- ・オフィスアワーとか相談できたり勉強で分からないことがあれば教えてもらえるので活用していきたい。
- ・大学生活でのコミュニケーションのとり方や言葉使いが分かった。
- ・図書館の利用方法、レポートの書き方、自己紹介のやり方が分かった。
- ・スマホや SNS の危険性についてよく知れた。
- ・自分で自分を管理することが大切だと思った。

以上のことから、学生個々で感じたことや得るものがあつたと考えられる。本ゼミではプレゼンテーションを 2 回(2 テーマ)行うことにしているが、2 回目の方が学生も慣れて、うまく発表ができていた。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

昨年度は教養講座に出席しても講演概要や聴講感想の記述内容が乏しい学生がいたが、本年度については注意喚起したこともあり改善されたので、引き続き行っていきたいと考えている。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

小林 正明

■ ゼミの学生数

6 名

■ 実施内容

“モノづくりを楽しもう！”というテーマで実際にモノづくりを行いながらレポートの作成方法、プレゼンテーション方法などを学習した。

- 1) オリエンテーションと自己紹介
- 2) 大学生活について
- 3) 大学の施設、勉強方法など
- 4) モノづくりに必要な物は？
- 5) ペーパーパラシュートの製作(1) 検討・制作
- 6) ペーパーパラシュートの製作(2) 発表・レポート作成
- 7) 紙動力自動車の製作(1) 検討・製作
- 8) 紙動力自動車の製作(2) 制作
- 9) 紙動力自動車の製作(3) 発表・レポート作成
- 10) “モノづくりのまち備後”で何を学ぶが 身だしなみ、挨拶と言葉づかい
- 11) 自己紹介と他人紹介
- 12) 社会人としてのマナー
- 13) 来客対応と客先訪問
- 14) 電話の受け方・かけ方・取り次ぎ方
- 15) 特別講義
- 16) 教養講座(1)
- 17) 教養講座(2)
- 18) 教養講座(3)
- 19) 教養講座(4)
- 20) 教養講座(5)
- 21) 教養講座(6)

■ 教養ゼミの成果等

本年度は各テーマを実施する前に大学での勉強内容だけでなく学生生活や就職活動などについても説明を行った。受講生から就職活動やアルバイトのことについて質問が多くあり学生生活について理解が深まったものと思われる。前半の教養ゼミでは、簡単なモノづくり教材を用いてモノづくりの大切さ、レポートの作成方法、プレゼンテーションの方法などを学習した。受講生は教養ゼミの時間だけでなく講義の空き時間などを使って各テーマに取り組んでいた。モノづくりに挑戦することで創造する楽しさや達成感を得ることができたと思われる。後半では、マナーアップコミュニケーション講座を実施した。マナーアップコミュニケーション講座では社会人として必要なマナーなどを学習した。また、特別講義では企業から講師に招き産業界でのモノづくりの現状と技術者の心構えについての講演を行った。受講生はこれからの大学生活にとって大変有意義な機会であったと思われる。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

自分で考え行動することができるようになることをテーマに授業を進めてきた。しかし、積極的に取り組んでいる学生とそうでない学生との取り組み方が異なっていた。SGD を積極的に取り入れることによって学生の学修のモチベーションの向上につなげた。

生命工学部 生物工学科

■ 担当者氏名

(代表)松崎浩明

山本覚、秦野琢之、山口泰典、久富泰資

■ 生物工学科教育プログラムにおける教養ゼミの位置付け

生物工学科では、学習意欲を高め、目標を設定し達成することを目的として、演習科目や実験科目を教育プログラムに多く取り入れている。本学科カリキュラムにおいて教養ゼミは、本学・本学科の教育の特徴の理解を深めさせ、一般教養を高めながらさらに幅広く事象に対する興味を喚起する科目として位置付けて開設している。さらに、初年次教育として、受講生が高校から大学の学修・生活へスムーズに移行し、またセミナーや実体験を通して受講生同士及び受講生と教員間で密にコミュニケーションを取ることで教員や友人との信頼関係を構築し、協調性や自主性を育成することを目指す。コミュニケーション力を育成するためにプレゼンテーションやディスカッションなどを積極的に取り入れて実施している。

■ 実施内容

前期

- 第1回 教養ゼミガイダンス及びオリエンテーションの追加(授業履修登録等)
- 第2回 大学における履修と学修 -「大学での履修」や「生徒と学生の違い」を考える-
- 第3回 第1回教養講座 井上正康先生「現代医学と21世紀病の逆襲-生物進化史から生命の内景と最先端医療を俯瞰する-
- 第4回 学生生活について -どのような学生生活を送るかを考える、図書館オリエンテーション-
- 第5回 植物の栽培 -ブドウの芽かき・誘引の説明-
- 第6回 第2回教養講座 安藤雅司先生「アニメーション制作の現場から」
- 第7回 スポーツ大会 -ソフトボールを行い、教員、同級生、先輩と親睦を深める-
- 第8回 福山大学と生物工学科を知る -福山大学と生物工学科の歴史や教育・研究の理念を知る-
- 第9回 バイオにおける「水」 -バイオにおける「水」の役割と重要性を知る-
- 第10回 バイオにおける「英語」 -バイオで使用する英語を知る-
- 第11回 バイオにおける歴史 -古典的バイオについて知る-
- 第12回 バイオにおける歴史 -現代バイオについて知る-
- 第13回 松永を知る -松永はきもの資料館の見学-
- 第14回 大学祭学科展示の企画 -グループディスカッション等により展示企画を考える-
- 第15回 第3回教養講座 竹内昌彦先生「見えないから見たもの」
- 第16回 前期の学修・生活を振り返って -前期の総括を行い、後期にどのようにするか考える-後期
- 第17回 大学祭の準備 -大学祭の展示物の作成-
- 第18回 第4回教養講座 羽田孜先生「未来をつくる自治体経営」
- 第19回 大学祭の準備 -大学祭の展示物の作成-
- 第20回 大学祭での展示発表
- 第21回 大学祭の総括 -大学祭展示発表の成果、来年度の課題のグループディスカッション、発表-
- 第22回 学修スキル -実験ノートの作成法を学ぶ-
- 第23回 学修スキル -実験データの整理法を学ぶ-
- 第24回 学修スキル -実験レポートの作成法を学ぶ-
- 第25回 第5回教養講座 部谷京子先生「映画の現場から、世界へ！」
- 第26回 最近のトピックス -最近のトピックスの情報を収集し、内容とコメントをまとめる-
- 第27回 挨拶、マナー、礼儀について -挨拶、マナー、礼儀を知る-
- 第28回 キャリア設計 -卒業後の進路の可能性や資格取得について知る-

第 29 回 2 年次の学修に向けて -将来の夢を達成するための学修計画を立てる-

第 30 回 1 年次の学修・生活の総括 -学修・生活を総括し、どんな教養を身に付けたか考える-

■ 成果について

(1) 教員が受講生と緊密なコミュニケーションを図りながら、新入生オリエンテーションの追加(履修登録の指導)、「大学での履修」や「生徒と学生の違い」の解説、大学における学生生活や図書館利用のオリエンテーションなどを指導することで、受講生が高校から大学の学修・生活にスムーズに移行でき、また学修意欲を高めることができた。

(2) 古典的バイオと現代バイオを紹介する講義を受け、生物工学に対する興味が増し、学修意欲が向上した。また、最近のトピックスの情報を新聞、テレビ、インターネットのホームページなどから収集する方法と情報の整理方法を学んだ。実際に情報を収集して、内容を要約し、トピックスに対する自身の意見を述べ、幅広い教養を身に付けるためのスキルを修得できたと思われる。

(3) ノート作成、実験データ整理、レポート作成を指導することで、学修スキルとこれらを行う習慣を身に付けることができた。

(4) 大学祭の学科展示の企画、準備、展示発表によって、教員、友人、先輩との信頼関係を築け、さらにコミュニケーション力、協調性、自主性が向上した。

(5) 挨拶、マナー、礼儀を幾らか醸成することができた。

(6) 卒業後の進路や将来の夢について考え、これらの実現に向けて、キャリア設計を検討し、2 年次の学修計画を立てた。

■ 次年度への課題

(1) アクティブラーニングとして、大学祭の展示発表を実施した。展示発表では、来客者が訪れても、積極的に展示の紹介・説明する学生が少なかった。次年度はさらに積極的に行動するように指導したい。また、挨拶、マナー、礼儀についての授業は、今年度は、大学祭以降の日程となった。次年度は大学祭よりも以前に授業を行い、大学祭で授業の効果を発揮できるようにしたい。

(2) 最近のトピックスについての課題は 1 回だけ提出させた。情報の収集・整理を習慣付け、幅広い教養を身に付けるために、次年度以降は何回か繰り返し実施した方が良いと思われる。

(3) 福山大学ワインプロジェクトの一環でブドウ栽培の一部を行うシラバスを提示したが、日程や天候の都合で、予定通りには行えなかった。次年度は流動性のある日程で取り組みたい。

生命工学部 生命栄養科学科

■ 担当者氏名

(代表) 菊田安至

山本英二、石崎由美子、石井香代子、高橋知佐子、久保田みどり、村上泰子、近藤寛子、中崎千尋、柴田紗知

■ ゼミ数、ゼミの学生数

ゼミ数: 5 ゼミの学生: 7 名

(ただし、各期の前半はクラス全体で実施し、後半は少人数制ゼミで実施。)

■ 前期実施内容

大学における学修の全体像を把握するとともに、大学での生活に慣れることを主目的として、全体ガイダンス(大学・学科の説明、履修登録など)に加えて図書館見学、保健管理センター見学、学科親睦スポーツ大会など合計6コマを導入教育とし実施した。次に6コマの基礎学力向上プロジェクトを行った。基礎学力向上プロジェクトでは、管理栄養士の勉強に必須となる化学、生物学、栄養学などの基礎学力向上を目指す学修を行った。

生命栄養科学科では、入学直後の1年次前期から管理栄養士の国家試験に出題範囲に含まれる専門科目(栄養学、食品学、医学、生化学など)が開講されており、教科書の専門用語や漢字の理解が難しく学生が十分に対応できていない。そのため、学科の専門科目の履修に必要な基礎学力の向上を優先している。この他に、教養講座に3回参加し、教養を深めた。

以上の15コマの教養ゼミにより、学生生活へのスムーズな移行に必要な知識と技能を学んだ。

■ 後期実施内容

後期の授業開始と同時に、大学祭での学科紹介のための準備を、役割を決めて5コマを集中的に実施した。イベント係、食品係、展示係などに分かれて、それぞれが責任を持って準備し、大学祭当日も説明にあたるなどした。これらの活動を通して、協同による課題解決の方法を学んだ。

大学祭終了後にゼミナールを6コマ行った。後期は、専門分野を学修するにあたり必要な基礎的知識と技能をさらに学んだ。また、福山市食生活改善員との協力による食育活動の模擬体験(2コマ)、臨地実習発表会(1コマ)ならびに卒業研究発表会(1コマ)を聴講して、管理栄養士としての将来の学びを体験した。この他に、後期中に2回行われた教養講座に参加し、教養を深めた。

■ 教養ゼミの成果

大学における学修への取り組み方は、入学直後の6月までには決まると言われている。そのため、大学生活をスムーズに開始することがとても大切になる。前期は大学で必要な様々な知識と能力を集中して学んだ。大学生活での目標を明確に定め、それに向かって進む道筋を分かりやすく示すことで、4年間の学修の基礎を築いた。

後期は、大学祭に参加することを通じて、コミュニケーション能力の向上と、人と交わりながら課題を解決する能力の習得を目指した。専門的な学修により管理栄養士資格を取得し、そして社会で活躍するまでの進路を明示した。

■ 問題点、改善点、次年度に向けた課題

卒業までに学生がそれぞれの目標に到達できるか否かは、入学時の学力よりも学修を継続する意思の強さ(モチベーション)が強く関わっている。入学直後から将来の進路をしっかりと定めることで、学生のモチベーションを引き出した。しかし、すべての学生が真剣に取り組めたわけではなく、一部に理解が不十分な学生がいた。また、入学直後からすでに授業について行けず、早々に意欲を失いかける学生が散見される。学力差を解消するための授業を展開しているが、完全にその差を埋めることはできていない。

入学直後の前期から管理栄養士国家試験に出題される内容を含む専門科目の授業が行われることから、教養ゼミの成果をゆっくりと待つ余裕はない。早期に学力向上と資格取得への意識づけに重点を置いた形式に見直しを行う。

生命工学部 海洋生物科学科

■ 担当者氏名

(代表) 三輪泰彦

■ ゼミ数, ゼミの学生数

ゼミ数:12

ゼミの学生数:9-10 名

全学生数:109 名

■ 前期実施内容

- 1) 全体ガイダンス:教養ゼミの内容説明、履修、授業、試験、学習支援等の補足説明、研究者(学生)求められる研究倫理の説明
- 2) 自己紹介(自己紹介シートおよび自己紹介発表原稿の作成)
- 3) 図書館の利用法によるガイダンス
- 4) 個人面談-学生生活、欠席調査など
- 5) 大学祭の展示企画-1 テーマおよび展示の原案作成-グループディスカッション
- 6) 大学祭の展示企画-2 テーマおよび展示の原案作成-グループディスカッション
- 7) 大学祭の展示企画- テーマの決定-全員でディスカッション
- 8) 大学祭の展示企画- 大学祭の物品リストの作成- テーマごとにディスカッション
- 9) 前期定期試験への心構え

■ 後期実施内容

- 1) 個人面談(前期成績のチェックや学生生活など)
- 2) 大学祭の計画-工程表の作成
- 3) 大学祭の準備-1 ポスター、看板、展示物の作成、準備作業の役割分担等
- 4) 大学祭の準備-2 水槽のセットアップ、観賞魚の飼育、金魚の飼育、展示する魚の採集、展示物の作成等
- 5) 大学祭の準備-3 会場の設営、展示物の備え付け、大学祭当日の役割分担およびスケジュールの調整等
- 6) 大学祭- 来場者への対応
- 7) 大学祭- あとかたづけ
- 8) 個人面談-欠席調査など
- 9) 大学祭の反省会
- 10) 後期定期試験への心構え

■ 教養ゼミの成果等

- (1) スモールグループディスカッションによる少人数体制で行ったので学生と教員、学生同士でコミュニケーションを十分にとることができた。
- (2) 学生生活や教務(履修方法、欠席調査、ゼルコバの操作方法、定期試験への対応など)の情報を学生に周知させ、サポートすることができた。
- (3) 大学祭展示企画のテーマを決定するために各グループで提案された企画案について全体討議を行うが、平成27年度からその司会進行を学生にバトンタッチした。今年度も学生が立候補して3名が司会進行役を務めてくれた。
- (4) プロダクトとして大学祭の展示企画(3つのテーマ、展示内容、必要物品等)についてまとめることができた。
テーマ:1) 匠海リウム・2) 貝の宝石アクセサリーづくり・3) 金魚すくい(定番)。

- (5) 大学祭を通じて学生同士の団結力(仲間意識)を高めることができ、イベントに参加したことでやりがいを感じてもらった。一方、準備などを進んでやらない同級生に対して、リーダーシップやコミュニケーション力をどのように発揮したらよいのかを学ぶための良い機会を与えることができた。
- (6) 大学祭の来場者(小中学生や高齢者、親子連れなど)への対応を通して、教員や学生以外の人とコミュニケーションをとる経験ができた。たとえば、知識を全くもたない人に興味をもって理解してもらうためには、何をどのようにして伝えたらよいのか、実践することでコミュニケーションを取ることの難しさや、コミュニケーション力を身につける必要性を学ぶことができた。
- (7) 大学祭の水槽などのかたづけ作業では2年生、3年生、4年生が指導して男子も女子も、率先して行ってくれたので責任感をもたせることができた。また、先輩との親睦も深めることができた。
- (8) 学生1人1人に、自分が担当した展示企画の問題点、反省点、今後の改善点、学科展示に参加した感想などをそれぞれ、まとめてもらった。
- (9) 平成28年度の改善点の一部を今年度にフィードバックすることができた。

■ 問題点, 改善点, 対応策

- (1) 教養ゼミの時間割調整が難しい。本学科では学生実験や会議、出張等によって一部の教員はスケジュール合わせができないことがある。また、因島キャンパス専任の教員は、因島キャンパスから本学に移動するため、教員の負担が非常に大きい。
- (2) 今年度も昨年度と同様に積極的にテーマごとにリーダー、副リーダー、書記に立候補し、その運営に指導力を発揮してもらった。今年度は、しっかりとリーダーシップを発揮する学生の割合が顕著に増えた。しかしながら全体で3テーマあることから1テーマあたりの学生数が30~40名と非常に多いので学生リーダー、副リーダーだけでは展示企画の仕事を進めていくのが難しいと感じた。次年度から1テーマあたり、3グループに分けて役割分担を決め、グループごとのサブリーダー、副リーダー、書記を中心にして運営を進め、テーマのリーダーが各グループを統括するようにする。
- (3) 大学祭は基本的に全員参加であるが、一部の学生は執行部の三蔵委員や各サークルに所属しており、大学祭の期間は執行部やサークル活動の仕事にそれぞれ専念してもらった。その際、担任にその旨、報告・連絡させた。一方でテーマごとに一部の学生の負担(準備や当日の展示運営)が大きいことも問題となった。
- (4) 大学祭やスモールグループディスカッションにおいて学生が主体となって取り組むことができる環境づくり(目標をしっかり理解してもらう、学生の意見や考えを発表しやすい雰囲気をつくること、積極性を引き出す手法を考えることなど)を継続して行っていく。
- (5) 昨年度と同様に、学生からのアンケート調査を行い、展示企画の問題点、反省点、今後の改善点を次年度の教養ゼミにフィードバックしていく。
- (6) 各研究室に所属する4年生による3つの専門コース(資源利用育成コース、フィールド生態環境コース、水産食品科学コース)の展示とジョイントした。1年生は4年生による展示に興味を示し、先輩達の研究内容を積極的に聞く学生も一部にみられた。少しずつ学年間の交流が円滑にみられるようにアクティブラーニングを通じて「学年の縦のつながり」を構築していきたい。

薬学部

■ 担当者氏名

(代表)田淵紀彦、
(担当)長崎信浩、岡村信幸、井上裕文、山下純、広瀬雅一、松田幸久(薬学入門担当)
石津隆、白川真、今重之、大西正俊、江藤精二、瀬尾誠(クラス担任)

■ ゼミ数、ゼミの学生数

新入生全員に対し、薬学入門Ⅰならびに教養講座において教養ゼミを実施した。

■ 実施内容

- 1 薬学入門Ⅰ(担当責任者:田淵紀彦)
毎週、クラス単位でスモールグループディスカッション(SGD)を行い、薬学入門担当教員(2名)ならびにクラス担任(2名)がチューターとして指導を行った。
※日程・方略は別紙参照
- 2 教養講座(担当責任者:田淵紀彦)
教養講座(5回)、特別教養講座(1回)を受講後、レポートを毎回提出させ、クラス担任が指導を行った。

■ 教養ゼミの成果等

学生が主体となって能動的に学習・情報共有、さらに体験することによって『気づきの学習』を実践することで、学生の行動変容のためのきっかけ作りになる。上記の学習により、次の事項について向上ならびに醸成を得たと考える。

- ・学生－教員間ならびに学生同士のコミュニケーションの活性化
- ・薬学生としてのモチベーションの醸成
- ・情報の収集と処理ならびにプレゼンテーションなどの能力の向上
- ・能動学習のための動機づけ
- ・問題解決能力の向上
- ・挨拶、マナー等の社会性の涵養

■ 問題点、改善策等

- ・学生ならびに実施施設からのアンケート調査によって、毎年改善を行っている。
- ・平成29年度は教養講座を欠席し、教養講座レポート未提出のため、1名の学生が不合格となった。この学生は後期途中から休学しており、教養講座は薬学入門Ⅱ(後期)の連動科目であるため不合格となった。教養ゼミ(教養講座)については新入生オリエンテーションで徹底して周知する予定である。

薬学入門前期（平成29年度）

4月					5月					6月					7月				
	3	4	5			3	4	5			3	4	5			3	4	5	
1 土					1 月				1 木					1 土					1 土
2 日					2 火				2 金					2 日					2 日
3 月					3 水		憲法記念日		3 土				※1, 2限目	3 月		方略9B(発表会準備) (P1)			3 月
4 火					4 木		みどりの日		4 日					4 火		方略9B(発表会準備) (P2)			4 火
5 水					5 金		こどもの日		5 月					5 水		方略9B(発表会準備) (P3)			5 水
6 木					6 土			※1, 2限目	6 火					6 木					6 木
7 金					7 日				7 水					7 金					7 金
8 土					8 月		方略5 (P1)		8 木					8 土		授業予備日		※1, 2限目	8 土
9 日					9 火		方略5 (P2)		9 金					9 日					9 日
10 月		方略1(P1)			10 水		方略5 (P3)		10 土					10 月		方略9C 発表会 (P1)			10 月
11 火		方略1(P2)			11 木				11 日					11 火		方略9C 発表会 (P2)			11 火
12 水		方略1(P3)			12 金				12 月					12 水		方略9C 発表会 (P3)			12 水
13 木					13 土		方略6(山中先生)	※1, 2限目	13 火					13 木					13 木
14 金					14 日				14 水					14 金					14 金
15 土	方略2(菅先生)		※1, 2限目		15 月		開学記念日		15 木					15 土		授業予備日		※1, 2限目	15 土
16 日					16 火		方略7 (P1)		16 金					16 日					16 日
17 月		方略3(P1)			17 水		方略7 (P3)		17 土				※1, 2限目	17 月					17 月
18 火		方略3(P2)			18 木				18 日					18 火					18 火
19 水		方略3(P3)			19 金				19 月					19 水					19 水
20 木					20 土		方略7 (P2)	※1, 2限目	20 火					20 木					20 木
21 金					21 日				21 水					21 金					21 金
22 土			※1, 2限目		22 月		方略8 (P1)		22 木					22 土		授業予備日		※1, 2限目	22 土
23 日					23 火		方略8 (P2)		23 金					23 日					23 日
24 月		方略4 (P1)			24 水		方略8 (P3)		24 土				※1, 2限目	24 月					24 月
25 火		方略4 (P2)			25 木				25 日					25 火					25 火
26 水		方略4 (P3)			26 金				26 月					26 水					26 水
27 木					27 土			※1, 2限目	27 火					27 木					27 木
28 金					28 日				28 水					28 金					28 金
29 土		昭和の日			29 月				29 木					29 土					29 土
30 日					30 火				30 金					30 日					30 日
					31 水									31 月					31 月

薬学入門前期方略(平成29年度)

方略	到達目標	日	細目	学習内容	場所	人的資源	時間(分)	備考
1	【SGDについて】 SGDの概略ならびに意義を認識する。 【今心にあること】 希望、期待、不安を認識する。	4月10～12日 (月～水) 3～4時限 P1:月曜日 P2:火曜日 P3:水曜日	1-1	講義 1. 薬学入門について(約15分) 2. SGDについて 3. KJ法について	研修室1	岡村・長崎・井上・田淵・ 広瀬・松田 (クラス担任)	40	資料配付・作業説明
			1-2	SGD 「今心にあること(希望、期待、不安)」を抽出(KJ法)	研修室1	担任	10	資料配布:課題(1) 「今心にあること」をタック シールに書き出す
			1-3	SGD 「今心にあること(希望、期待、不安)」の 島とタイトルを作成する(KJ法)		担任	40	模造紙に島とタイトルを作 成する
			1-4	SGD 今日からできること(今後の行動目標)		担任	30	資料配布:課題(2)
			1-5	発表 発表(各5分)・総合討議(各15分)	研修室1,2	担任	50	
2	【ニューマニズム・コミュニケーション】 行動変容のための役立と感と幸せに ついて気づきの学習をする。	4月15日(土) 1～2時限	2	講義 1 身体とこころの体感・気づきのワーク 2 グループワーク (お友達のを借りて問題解決)	研修室1, 2	菅 (担任)	180	
3	【薬とその適正使用】 1. 「薬とは何か」を討議し、概説できる。 2. 種々の剤形とその使い分けについて 討議し、概説できる。 3. 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを 討議し、概説できる。	4月17～19日 (月～水) 3～4時限 P1:月曜日 P2:火曜日 P3:水曜日	3-1	講義 「人にやさしい薬・良い薬(薬の種類や分類)」 について(KJ法)	研修室1	井上・広瀬・田淵(説明) (月、火、水)	10	作業説明
			3-2	SGD 「人にやさしい薬・良い薬(薬の種類や分類)」 について抽出(KJ法)	研修室1	担任	15	意見をタックシールに書き 出す
			3-3	SGD 「人にやさしい薬・良い薬(薬の種類や分類)」 の島とタイトルを作成する(KJ法)		担任	40	模造紙に島とタイトルを作 成する
			3-4	発表 発表(各5分)・討議(各5分)	研修室1, 2	担任	50	発表:模造紙
			3-5	調査 SGD 疑問点についての調査とまとめ	研修室1	担任	60	
4	【薬剤師の活動分野】 1. 薬剤師の活動分野について概説できる。 2. 自分の将来の進路とその仕事内容について討議する。	4月24～26日 (月～水) 3～4時限 P1:月曜日 P2:火曜日 P3:水曜日	4-1	講義 「薬剤師の仕事の種類 (卒後の進路と仕事内容)」 について	研修室1	井上・広瀬・田淵(説明) (月、火、水)	10	作業説明
			4-2	SGD 「薬剤師の仕事の種類 (卒後の進路と仕事内容)」 について抽出	研修室1	担任	15	カードに意見を書いてタ ックシール内で発表
			4-3	SGD 「薬剤師の仕事の種類」についてマインドマッ プの作成		担任	40	模造紙にマップを作成
			4-4	発表 発表(各5分)・討議(各5分)	研修室1, 2	担任	50	発表:模造紙
			4-5	調査 SGD 疑問点についての調査とまとめ	研修室1	担任	60	書籍を利用して調査

5	【薬剤師の活動分野】 1. 病院ならびに保険調剤薬局における薬剤師の役割について調べて討議し、医薬分業を概説できる。 2. 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。 3. 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について討議し、概説できる。 【事前学習】 1. 見学施設への質問内容について調べ討議する。	5月8日～10日 月～水 3～4時限 P1:月曜日 P2:火曜日 P3:水曜日	5-1	講義	「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事について（仕事内容と係り合い）」	研修室1	井上・広瀬・田淵（説明） （月、火、水）	10	作業説明		
			5-2	SGD	「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事について抽出」			15	カードに意見を書いてグループ内で発表		
			5-3	SGD	「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事についてインターネットマップの作成」			40	模造紙にマップを作成		
			5-4	発表	発表（各5分）・総合討議（各15分）	研修室1,2	50	発表:模造紙			
			5-5	調査SGD	疑問点についての調査とまとめ	研修室1	60	書籍を利用して調査			
			5-6	SGD	見学施設への質問内容をリストアップ		20	ホワイトボードに意見を書く USBメモリー持参 自己紹介票の雛形配付			
6	【マナー・コミュニケーション・薬剤師について】 薬学生としての心得や理想の薬剤師について学ぶ。	5月13日（土） 1～2時限	6	講義	1. 基本的なマナー・コミュニケーション 2. 薬剤師のやり甲斐	研修室1、2	山中 （担任）	180	レポート提出		
7	【事前学習】 1. 見学施設におけるマナーならびに注意点などを討議する。 2. 見学施設への事前連絡の仕方ならびに質問内容について討議する。	5月16日～17日 日、20日 火～水、土 3～4時限 1～2時限 P1:火曜日 P2:土曜日 P3:水曜日	自己学習		調査課題: 見学施設への質問内容や専門用語について						
			7-1	講義	訪問時の注意点や事前連絡の仕方について	研修室1	井上・広瀬・田淵（説明） （土、火、水）	10	作業説明		
			7-2		訪問時の注意点や事前連絡の仕方について討議	研修室1	担任	30	ホワイトボードにまとめる		
			7-3	発表	発表（3分）・討議（5分）			60	発表:ホワイトボード		
			7-4	DVD	発表準備（注意事項や質問内容など）	研修室1	田淵	40			
			7-5	SGD	訪問時の注意点や事前連絡の仕方や見学施設への質問内容を再討議	研修室1	担任	20			
		7-6	SGD	質問票の作成	20			質問票の雛形配付 USBメモリー持参			
		事前連絡		見学施設（指導薬剤師）へ連絡し、事前に訪問時間等を調整							
		自己学習		質問内容や専門用語について充分学習しておく							

8	【グループ学習方法を学ぶ】 みんなで学習しよう	5月22日～ 5月24日 (月～水) 3～4時限 P1:月曜日 P2:火曜日 P3:水曜日	8	SGD	各科目の問題を個人およびグループで解答する。	研修室1	井上(説明) 薬学入門担当教員	180	作業説明 資料の配布
9	【早期体験学習】 1. 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。 2. 保険薬局における薬剤師の業務を見聞し、その重要性について意見をまとめ、発表する。	6月12日～ 6月28日 ※詳細は 日程表参照	9A	見学	体験学習	病院	指導 薬剤師	60～ 240	
						薬局		60～ 240	
			自己学習				討議・まとめ・発表準備		
		7月3～5日 (月～水) 3、4時限	9B	SGD	発表準備 後期実習施設選択	研修室1	担任	180	ノートPC 施設選択票の配付・回収
		7月10～12日 (月～水) 3、4時限	9C	発表	発表・討議(各5分)	研修室1	担任	180	クラス別公開発表会 (施設単位)

大 学 教 育 セ ン タ ー